



2018年3月期
(2017年4月1日～2018年3月31日)

決算説明会

2018年5月16日
ディーバイエックス株式会社
証券コード：3079

目次

1. 当期のポイントと事業別業績概況	P3
2. 当期の決算概況	P11
3. 業績予想	P21
4. 取組み	P 24
5. 参考資料	P26

1. 当期のポイントと事業別業績概況

取り巻く環境

- ✓ 2018年4月の診療報酬改定に向けた議論
- ✓ 診療報酬本体はプラス改定、材料価格は全般的に引き下げ

増加し続ける国民医療費を背景に、厳しい事業環境への対応が求められる状況となっております。

⇒環境変化に対応した効率化、合理化が求められる状況となっております。

不整脈事業

- ✓ 既存顧客へのサービスの充実を図り新規顧客の開拓に注力

西日本エリアを中心に新規顧客を開拓し売上増に貢献しました。

虚血事業

✓ エキシマレーザー血管形成システムの販売への注力

⇒前年に引き続き販売に注力し、本体は7台を販売しました。

⇒下肢動脈留置ステント内再狭窄を適用とする薬事申請を行いました。

✓ 自動造影剤注入装置の独占販売が2017年5月末で終了

⇒売上高、利益が減少する要因となりました。

事業別業績概況

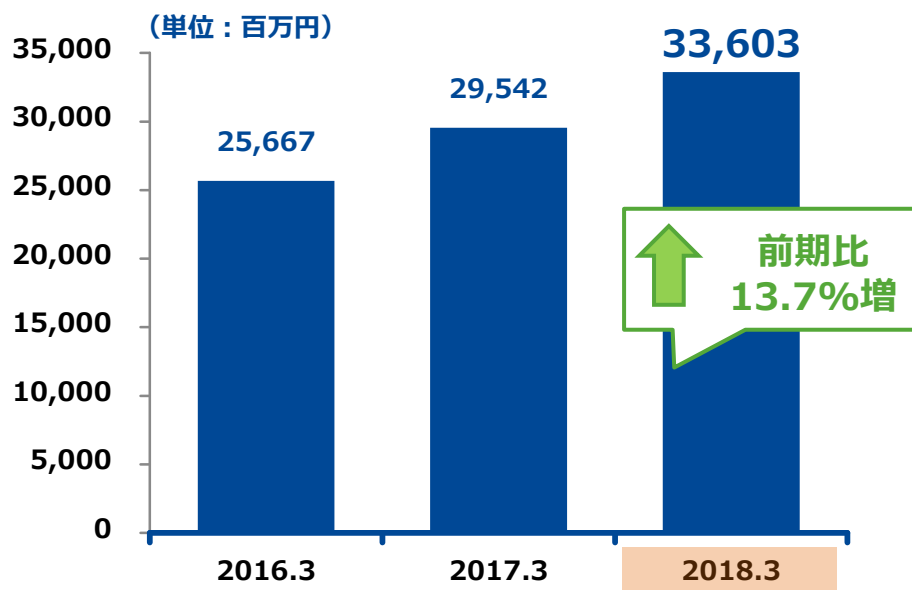
各事業の売上高、セグメント利益（粗利益） （2018年3月期）

（単位：百万円）

	売上高	構成比	前期比	セグメント 利益 （粗利益）	構成比	前期比
不整脈事業	33,603	87.8%	↑ 13.7%	4,207	77.6%	↑ 15.4%
虚血事業	3,578	9.3%	↓ 25.8%	1,077	19.9%	↓ 30.6%
その他	1,094	2.9%	↑ 21.3%	140	2.6%	↑ 21.5%
合計	38,275	100%	↑ 8.5%	5,425	100%	↑ 2.1%

事業別業績概況

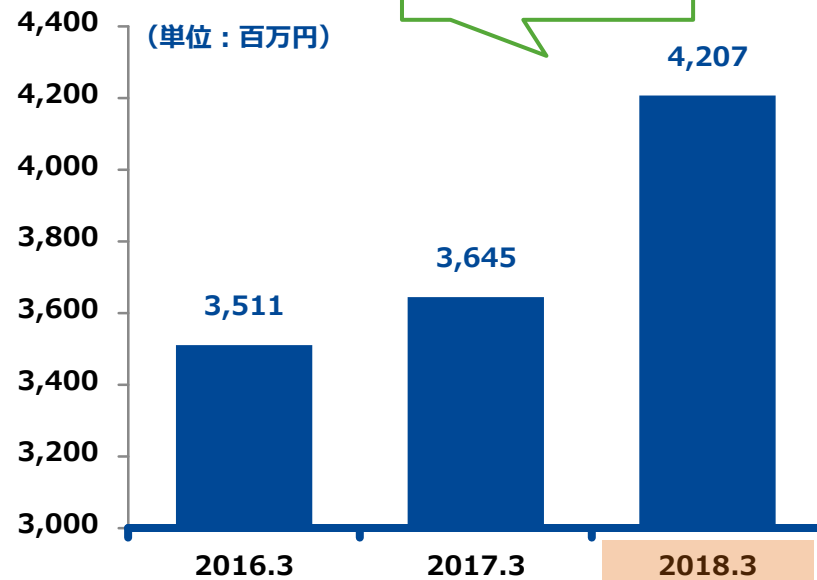
不整脈事業



売上高 **336.0億円**

(前期比 **13.7%増**)

- ✓ 検査用電極カテーテルやアブレーションカテーテル類等の主力商品の販売数量増加



セグメント利益 **42.0億円**

(前期比 **15.4%増**)

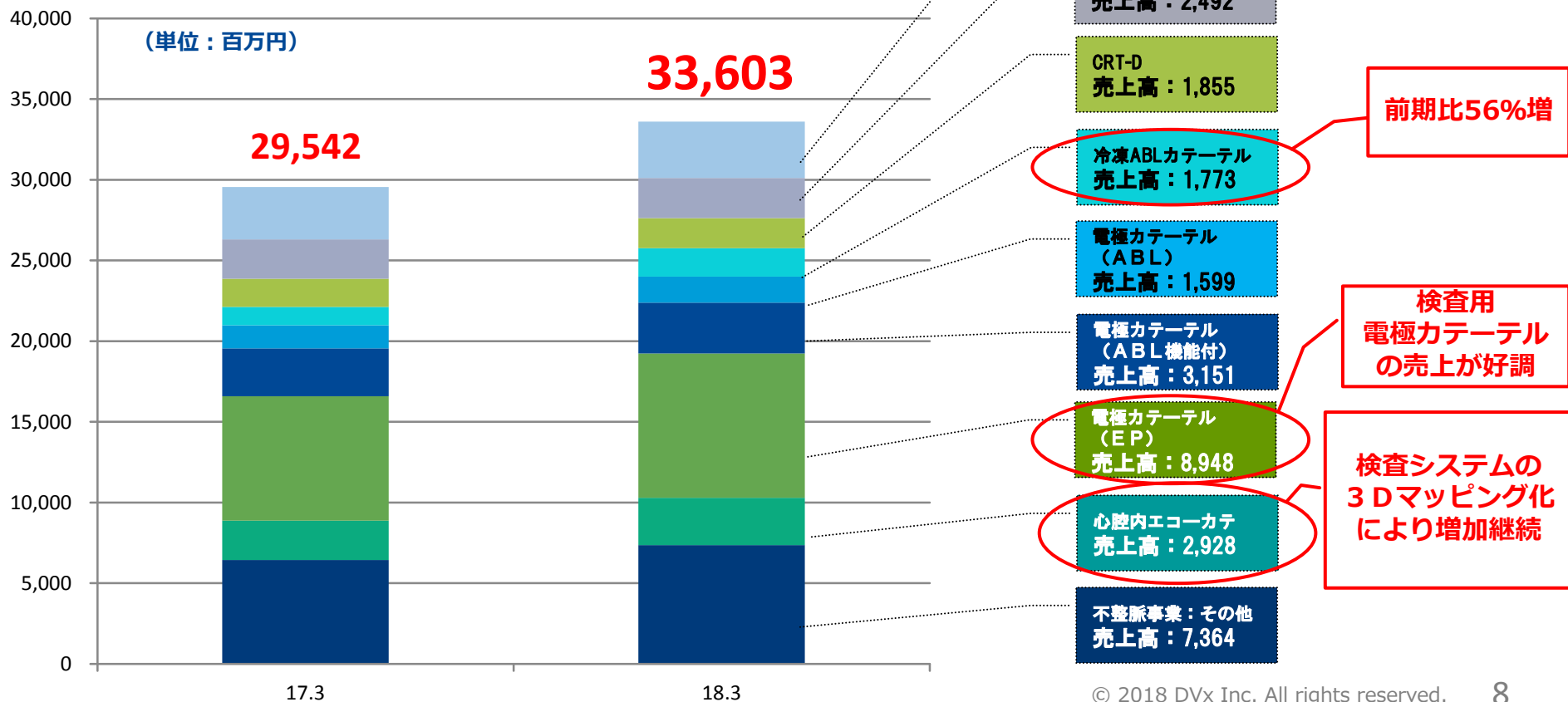
- ✓ 粗利益率は12.5% (前期は12.3%)

事業別業績概況

不整脈事業

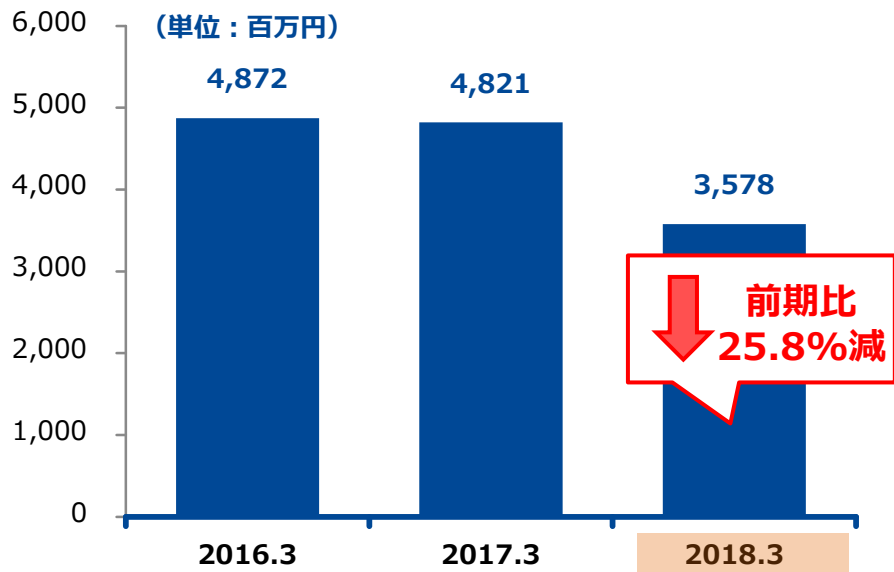
継続的な販売の拡大

⇒ 継続的な市場規模拡大に伴い販売が拡大中



事業別業績概況

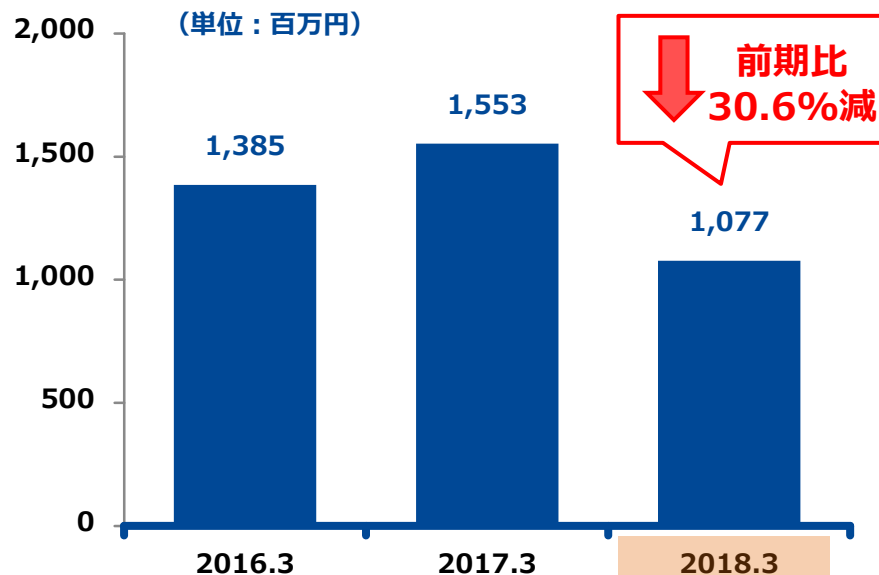
虚血事業



売上高 **35.7億円**

(前期比 **25.8%減**)

- ✓ エキシマレーザ血管形成システムの販売台数が前期と比較して減少（前期12台、今期7台）
- ✓ 自動造影剤注入装置の取扱い終了（前期売上高実績 18.7億円）



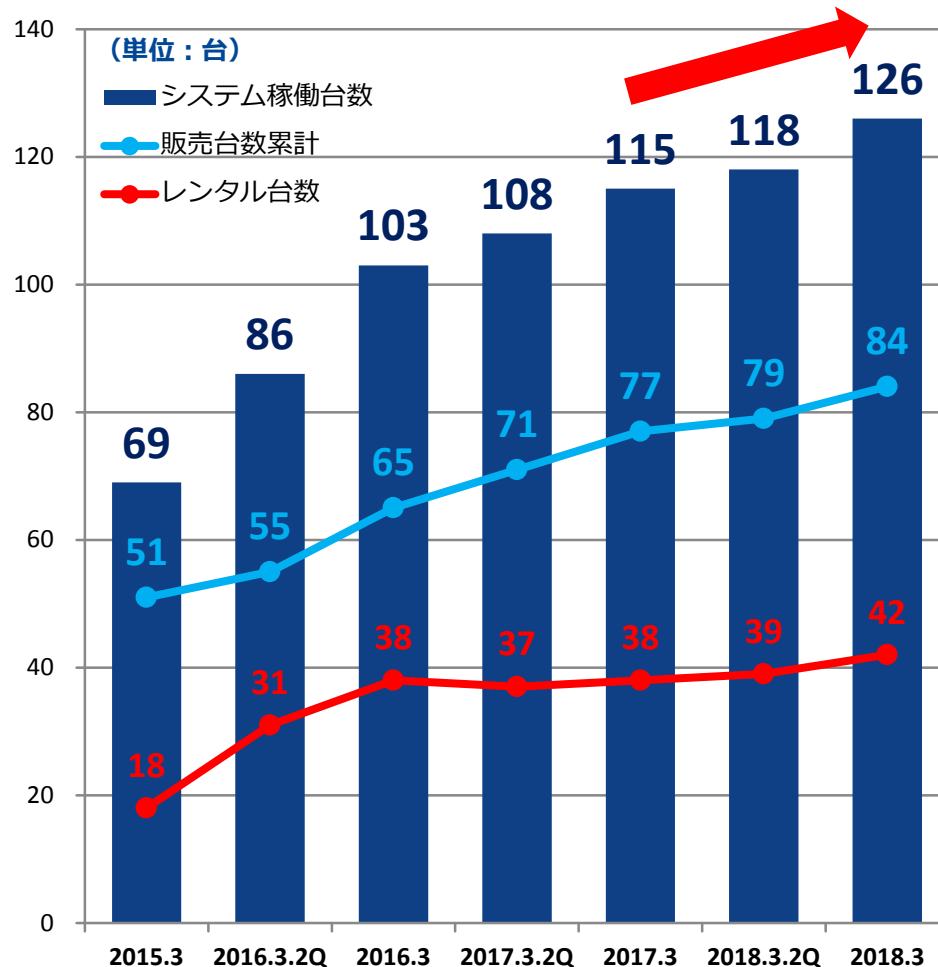
セグメント利益 **10.7億円**

(前期比 **30.6%減**)

- ✓ 売上減少に伴い利益も減少
- ✓ 粗利益率は30.1%（前期32.2%）

事業別業績概況

虚血事業



エキシマレーザ導入の推進

販売**7**台とレンタル**4**台により
累計**126**台に

新商品ラインナップ

- ✓ 高出力タイプのリード抜去用シース (GlideLight) 販売開始 (2017年3月)
- ✓ 下肢末梢動脈治療用レーザカテーテルの薬事申請

2. 当期の決算概況

要約損益計算書 (2018年3月期)

(単位 : 百万円)

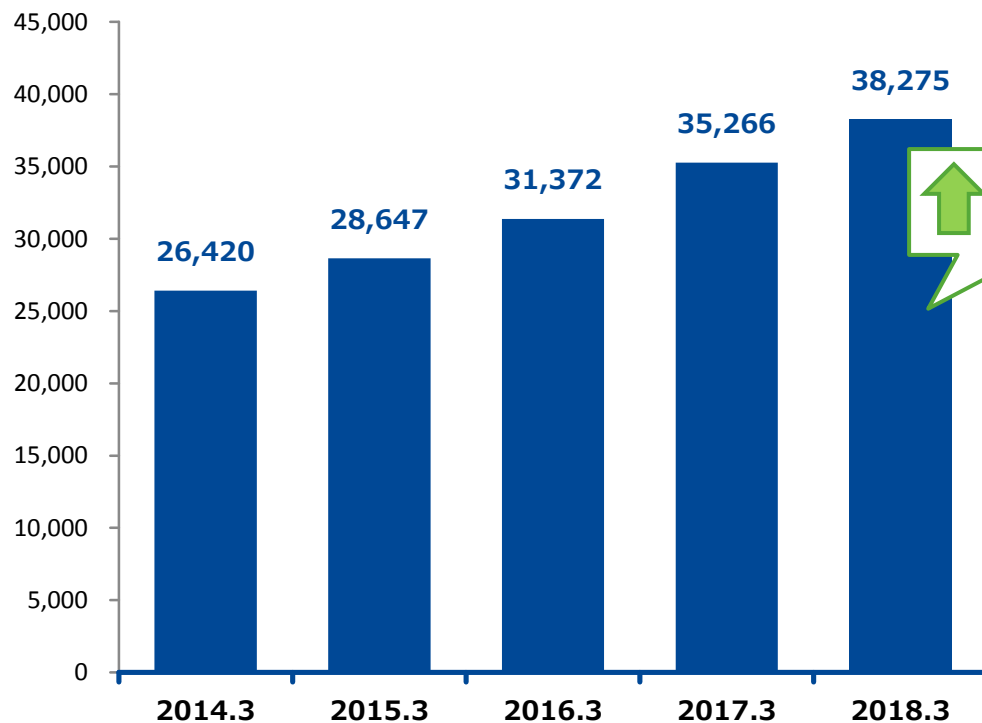
	前期 (2017年3月期)	百分率	当期 (2018年3月期)	百分率	増減率
売上高	35,266	100.0%	38,275	100.0%	+8.5%
売上総利益	5,314	15.1%	5,425	14.2%	+2.1%
販管費	3,789	10.7%	4,104	10.7%	+8.3%
営業利益	1,524	4.3%	1,320	3.4%	-13.4%
経常利益	1,491	4.2%	1,346	3.5%	-9.7%
当期純利益	1,025	2.9%	856	2.2%	-16.6% (※)

※ 当期に投資有価証券評価損（1.2億円）
を特別損失に計上したため。

売上高

前期比**8.5%増** **382.7億円**

(単位：百万円)



主な要因

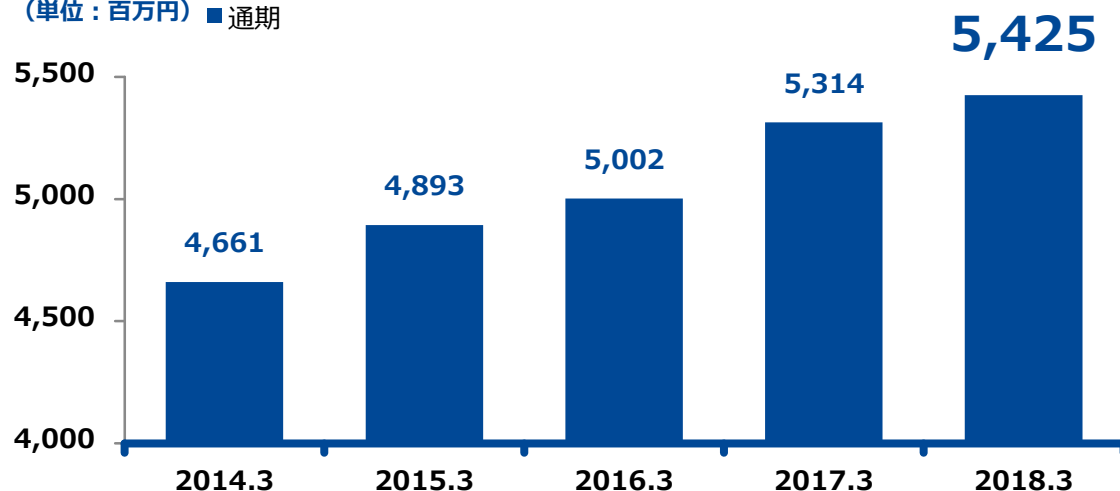
- ✓ 不整脈事業における主力商品(※)の販売数量の増加

※検査用電極カテーテル、アブレーションカテーテル類等

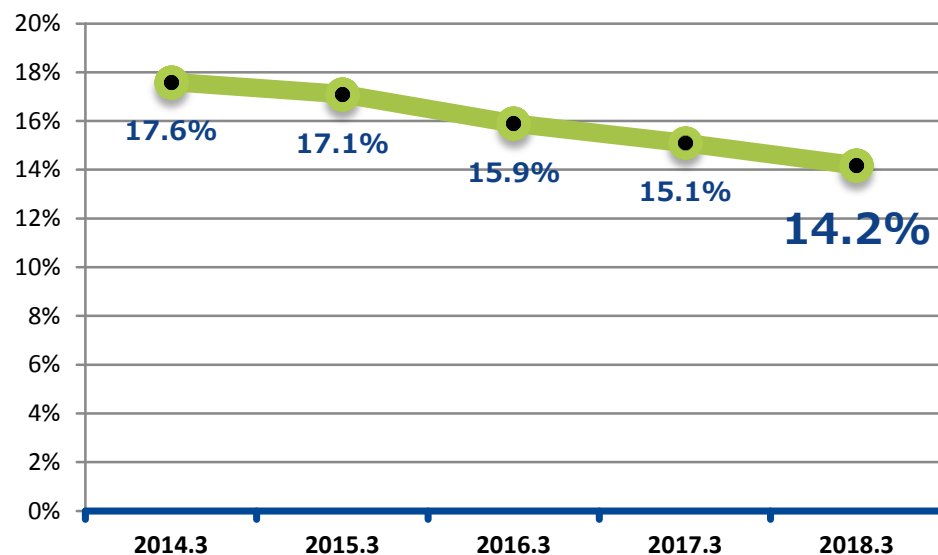
- ✓ 脳外科関連商品等が好調に推移

売上総利益

(単位：百万円) ■ 通期



↑ 前期比 2.1%増
前期比 **2.1%増**
54.2億円



売上総利益率 = **14.2%**

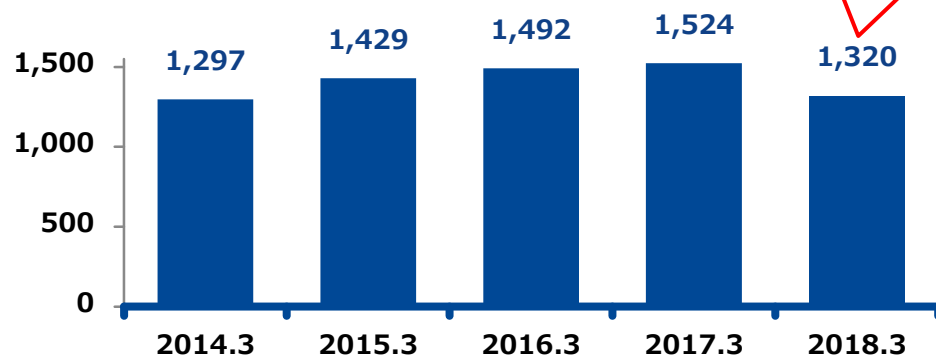
15.1%から0.9ポイント低下

利益率低下要因

- ✓ 医療機関からの値下げ要求
- ✓ 粗利率が高い自動造影剤注入装置の取扱い終了

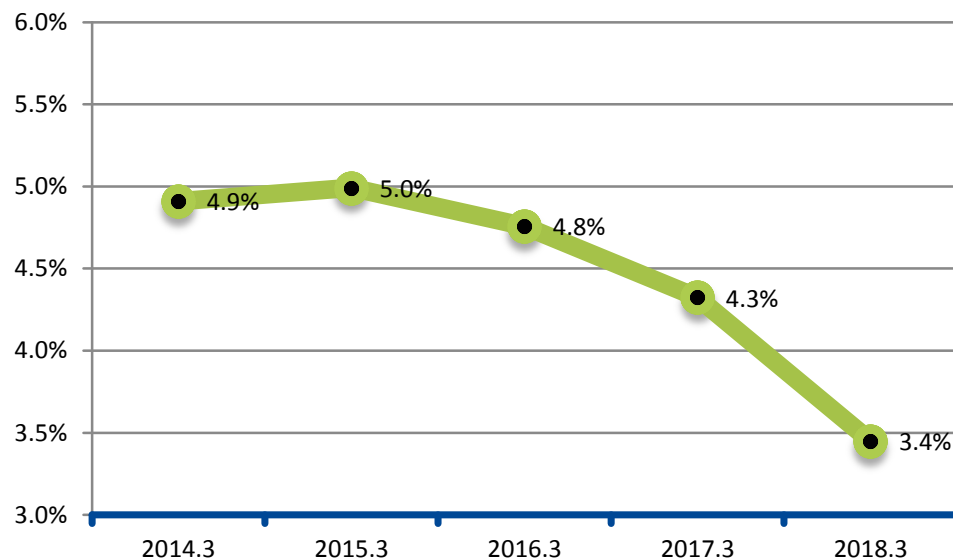
営業利益

(単位：百万円)



前期比**13.4%減**
13.2億円

- ✓ 次頁「営業利益増減分析」ご参照。
- ✓ 販管費は研究開発費の増加等により増加（前期比8.3%増）するも、販管費比率は10.7%であり、前期と同水準。

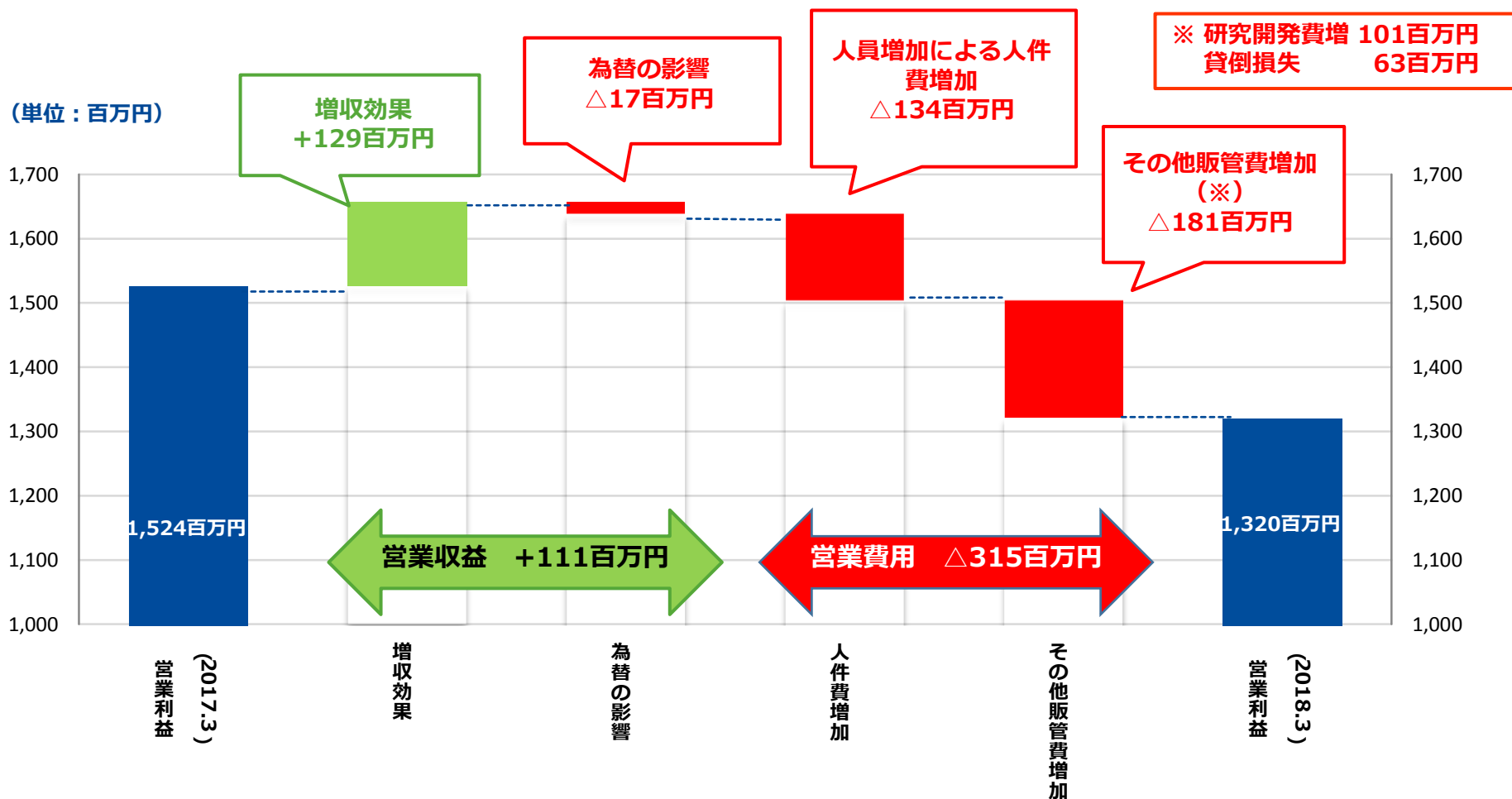


営業利益率 = **3.4%**

- ✓ 虚血事業における自動造影剤注入装置の取扱い終了の影響や売上総利益率の低下に伴い営業利益率も低下傾向。

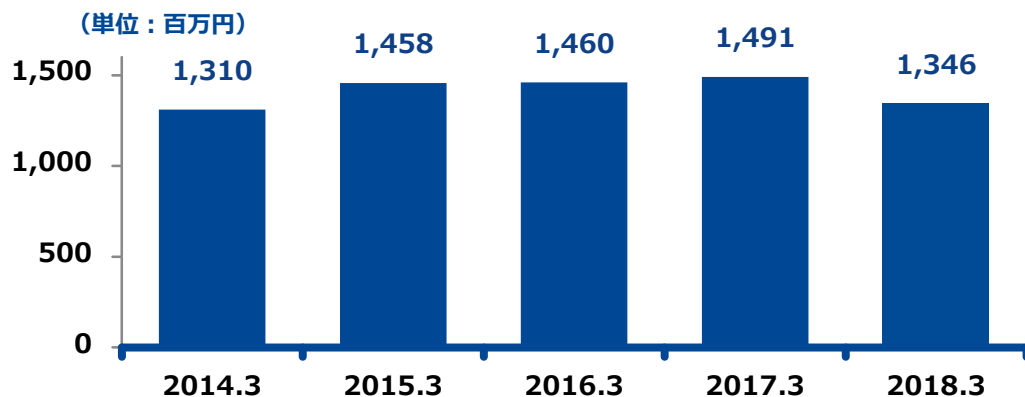
営業利益増減分析

不整脈事業における主力商品の販売数量増加により前期比増収。しかし、虚血事業の減益は補いきれず、全体で減益。



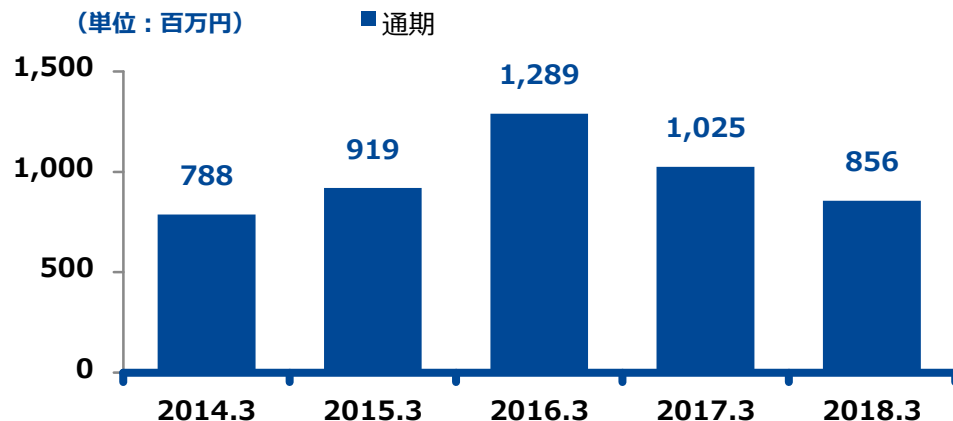
経常利益・当期純利益

経常利益 前期比 **9.7%減** **13.4億**円



- ✓ ROA (総資産経常利益率) **7.9%**
- ✓ 売上高経常利益率 **3.5%**
目標である売上高経常利益率4%は未達。

当期純利益 前期比 **16.6%減** **8.5億**円



- ✓ ROE (自己資本当期純利益率) **12.1%**
目標であるROE 20%以上は未達。

主な減益要因

- ✓ 当期に投資有価証券評価損を特別損失に計上したため。

要約貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (2017年3月31日)	当期末 (2018年3月31日)	構成比	増減	主な増減要因
流動資産	15,378	16,556	93.9%	+7.7%	● 通常の営業活動による現金及び預金の増加 (7.1億円) ● 売上高増加に伴う電子記録債権の増加 (3.8億円)
固定資産	1,002	1,074	6.1%	+7.1%	● 営業用資産の購入による工具、器具及び備品の増加 (1.4億円) と長期前払費用の増加 (0.1億円)
資産合計	16,381	17,630	100.0%	+7.6%	
流動負債	9,295	9,867	56.0%	+6.2%	● 仕入高増加に伴う買掛金の増加 (4.1億円) ● 未払法人税等 (0.6億円) と未払い金 (0.4億円) の増加
固定負債	317	390	2.2%	+23.2%	● 退職給付引当金の増加 (0.2億円) ● 長期借入金金の増加 (0.4億円)
負債合計	9,613	10,258	58.2%	+6.7%	
純資産	6,768	7,371	41.8%	+8.9%	● 当期純利益による増加 (8.5億円) ● 配当金の支払いによる減少 (2.5億円)
負債純資産合計	16,381	17,630	100.0%	+7.6%	

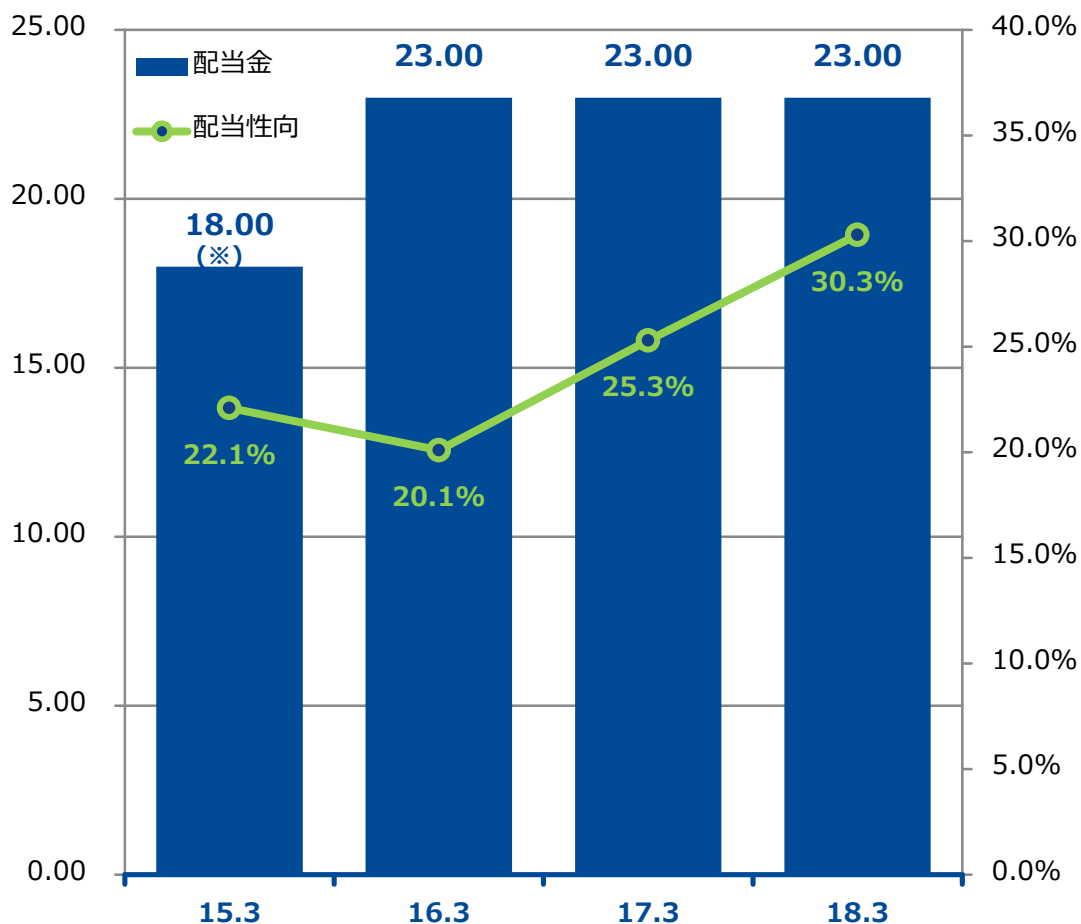
キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前期 (2017年3月期)	当期 (2018年3月期)	増減	主な収入・支出
営業活動による キャッシュ・フロー	1,152	1,205	53	+税引前当期純利益 (12.2億円) +減価償却費 (1.7億円) +仕入債務増加 (4.5億円) ▲売上債権増加 (3.7億円) ▲法人税等の支払 (3.4億円) など
投資活動による キャッシュ・フロー	▲136	▲266	▲130	▲有形固定資産取得 (2.7億円) ▲差入保証金の差入 (0.1億円) +投資有価証券売却 (0.2億円) など
財務活動による キャッシュ・フロー	▲295	▲215	80	+長期借入れ (1.1億円) ▲長期借入金の返済 (0.6億円) ▲配当金の支払 (2.5億円) など
現金及び現金同等物の 増減額	697	719		
現金及び現金同等物の 期首残高	4,677	5,375		
現金及び現金同等物の 期末残高	5,375	6,095		

2018年3月期 配当

(単位：円)



期末配当 23円
(配当性向30.3%)

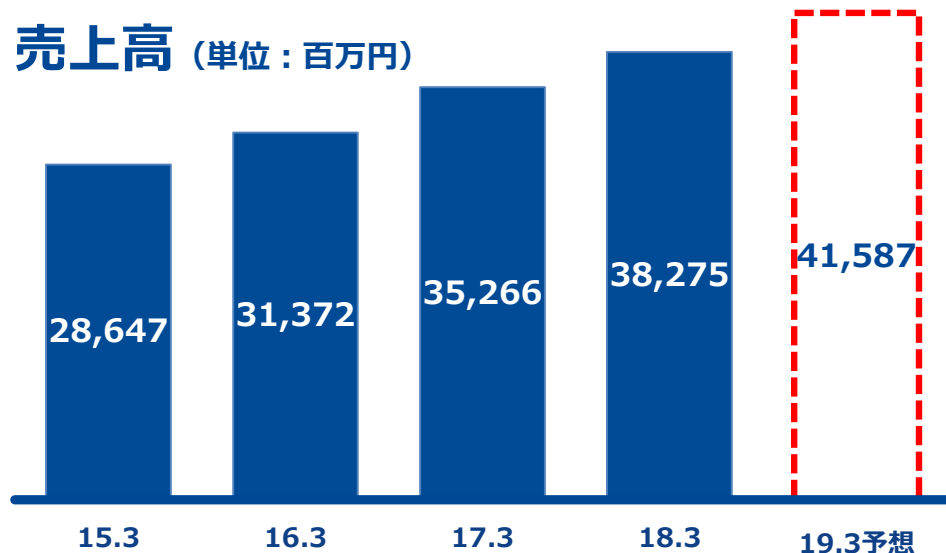
✓ **2018年3月期より
配当性向30%に基本方針変更**

※ 2015年3月期には記念配当1円を含む

3. 業績予想

2019年3月期 業績予想

売上高 (単位：百万円)

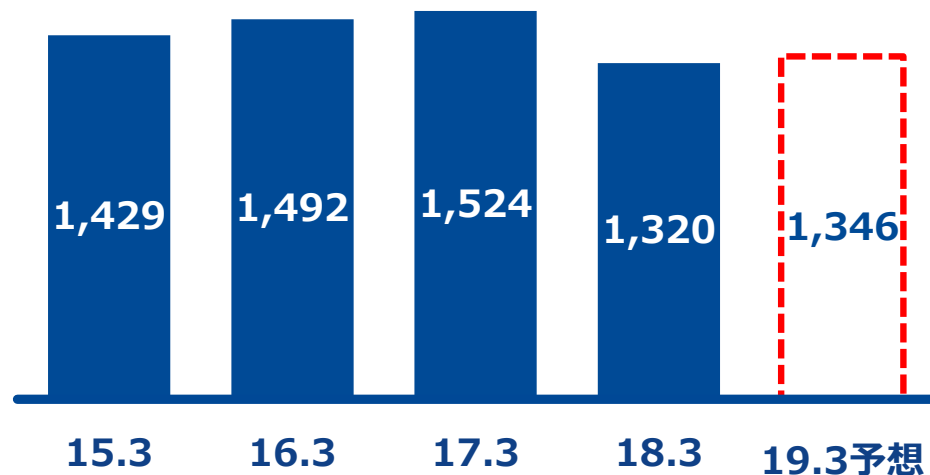


予想売上高 **415億円**

(前期比**8.7%増**)

- ✓ 連続増収を継続
- ✓ 不整脈事業の営業力強化・エリア拡大と虚血事業の独自商品の販売拡大に注力
- ✓ 不整脈事業：前期比32.2億円（9.6%）増
- ✓ 虚血事業：前期比0.7億円（2.2%）減
- ✓ 診療報酬改定の影響は4%程度を想定

営業利益 (単位：百万円)



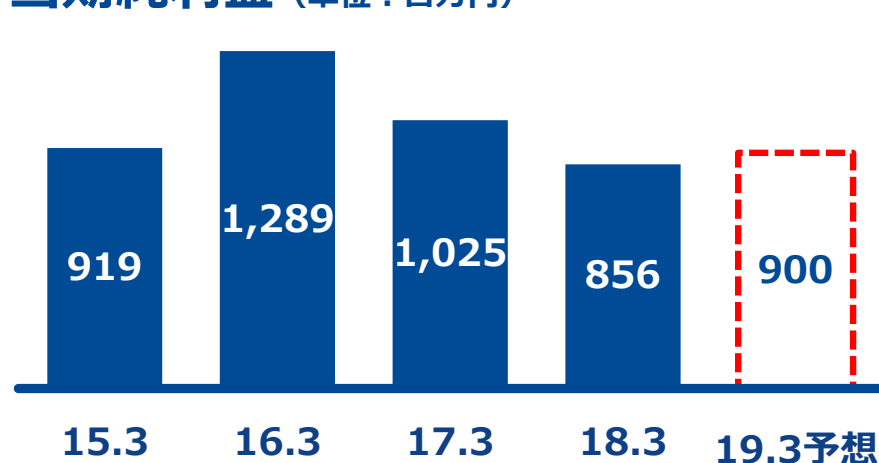
予想営業利益 **13.46億円**

(前期比**2.0%増**)

- ✓ 想定為替レートは110円／ドル

2019年3月期 業績予想

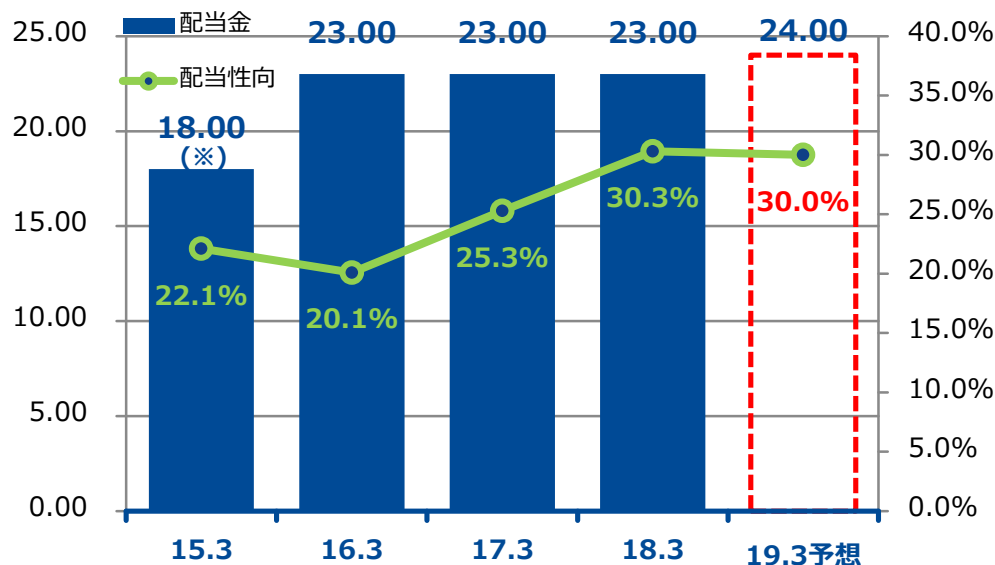
当期純利益 (単位：百万円)



予想当期純利益 **9.0億円**

(前期比 **5.2%** 増)

予想EPS **79.88円**
(前期実績**75.92円**)



予想期末配当 **24円**

(予想配当性向 **30.0%**)

✓ 2018年3月期より

配当性向 **30%** に基本方針変更

※ 2015年3月期には記念配当1円を含む

4. 取組み

自動造影剤注入装置に関する契約終了の影響を 4期（2018年3月期～2021年3月期）で回復することを目指す。

※当初の3期（2018年3月期～2020年3月期）から変更しました。

2019年3月期の取組み

自社開発医療機器への取組み

- ✓ 研究開発活動強化により製品開発を加速

不整脈事業の全国展開への取組み

- ✓ 既存顧客の深耕と新規顧客の開拓によるエリア拡大を継続
- ✓ 人材の確保と教育の強化

利益率改善への取組み

- ✓ メーカーとの協力関係強化

新規商品ラインナップ追加への取組み

- ✓ 映像マネジメントシステム販売など

5. 参考資料

社名の由来



- ▶ *Development*
- ▶ *Venture*
- ▶ *x*

常にVenture精神を持ち続け、新医療技術の開拓と開発に貢献し、その成功に無限の可能性を求め続ける企業でありたいとの信念から、社名といたしました。

私たちは、医療業界で患者・医師・医療関係者のニーズを絶え間なく追求し、創造的なソリューションを提供する事で、社会に貢献する集団です。

目標に向かって個々の力を最大限に発揮する『心』ある社員により集団を結成し、確かな未来を見据え、目的意識を明確に保持し、変化に対応する新しい企業です。

- 1986年 心臓ペースメーカー販売とフォローアップ業務を目的として、(株)ヘルツを設立
- 1992年 心臓電気生理検査用機器の輸入販売を開始
- 1997年 医療機器輸入会社(有)シー・エム・アイジャパンを子会社化
(株式会社に改組後、ディーバイエックスジャパン(株)に商号変更)
- 2000年 自動造影剤注入装置 (A C I S T) の輸入販売を開始
- 2000年 日本で初めて A E D (自動体外式除細動器) を販売 (日本航空の航空機内に搭載)
- 2003年 エキシマレーザ血管形成システムの輸入販売を開始
- 2004年 ディーバイエックスジャパン(株)を吸収合併、(株)ヘルツからディーバイエックス(株)に商号変更
- 2007年 ジャスダック証券取引所に株式上場 (現 東京証券取引所 J A S D A Q)
- 2008年 エキシマレーザ心内リード抜去システムの薬事承認を取得
- 2010年 (株)メディカルプロジェクトより静岡の営業拠点を事業譲受
- 2011年 「エキシマレーザ血管形成システム」のリードロッキングデバイスが保険適用
- 2012年 「エキシマレーザ血管形成システム」の冠動脈形成用レーザカテーテルが保険適用
- 2013年 東京証券取引所市場第二部に上場
- 2014年 東京証券取引所市場第一部に上場

従業員数・営業拠点

Number of Employees and Offices

従業員数 (2018年3月31日現在)

284名

営業拠点 (2018年3月31日現在)

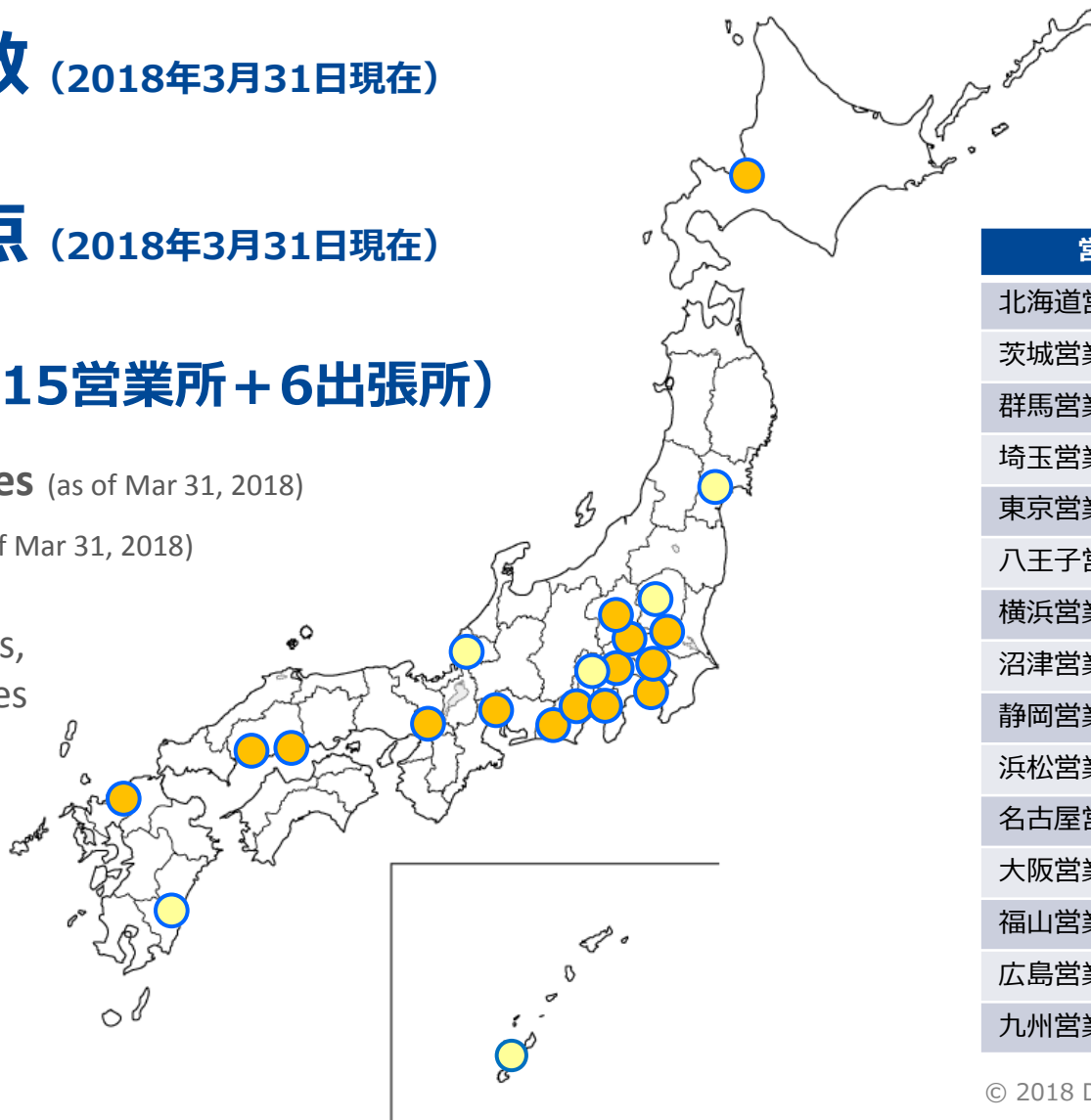
22拠点

(本社 + 15営業所 + 6出張所)

284 employees (as of Mar 31, 2018)

22 offices (as of Mar 31, 2018)

head office,
15 sales offices,
6 branch offices

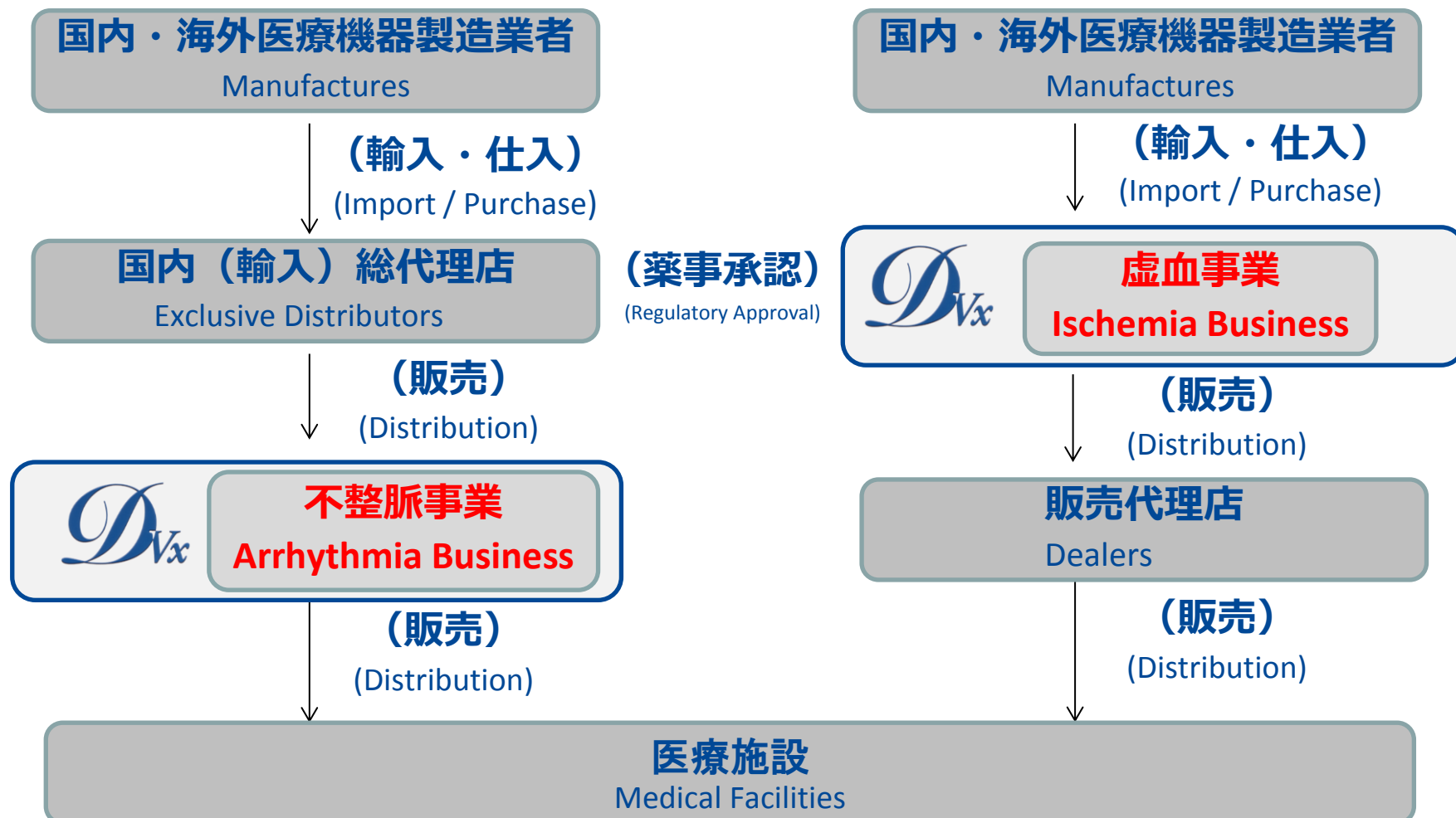


営業所	出張所
北海道営業所	仙台出張所
茨城営業所	栃木出張所
群馬営業所	山梨出張所
埼玉営業所	福井出張所
東京営業所	宮崎出張所
八王子営業所	沖縄出張所
横浜営業所	
沼津営業所	
静岡営業所	
浜松営業所	
名古屋営業所	
大阪営業所	
福山営業所	
広島営業所	
九州営業所	

事業内容①

Business Overview ①

主要事業のビジネスモデル Business Model



事業内容②

主要事業のビジネスモデル

不整脈事業



虚血事業

販売代理店

国内総代理店

(特徴)

体内に植え込むペースメーカー等のデバイスは電池の寿命が8～10年程度となっており、長期にわたって正常な機能性をもたせるためのフォローアップが必要となります。したがって、当事業は既存顧客の売上に新規顧客の売上が「積み上がる」安定的な事業モデルとなります。

(特徴)

医療現場が求めるニーズを汲み取り、海外メーカ等から直接、医療機器を輸入する事業です。独自性を有し、且つグローバル企業の医療機器と競合しないニッチトップ製品の取扱いをポリシーとしており、競合品が少ないことから製品ライフサイクルは長くなる傾向があります。

事業内容③

主要取扱い製品

不整脈事業



虚血事業

販売代理店

取扱い医療機器 約18,000点
取引医療施設 約1,600施設

国内総代理店

心臓ペースメーカー

I C D（植込み型除細動器）

C R T - D

（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）

アブレーションカテーテル

（心筋焼灼術用カテーテル）

電極カテーテル（検査用）

エキシマレーザ血管形成システム

稼動台数 126台(2018年3月末)

心内リード抜去（保険適用）

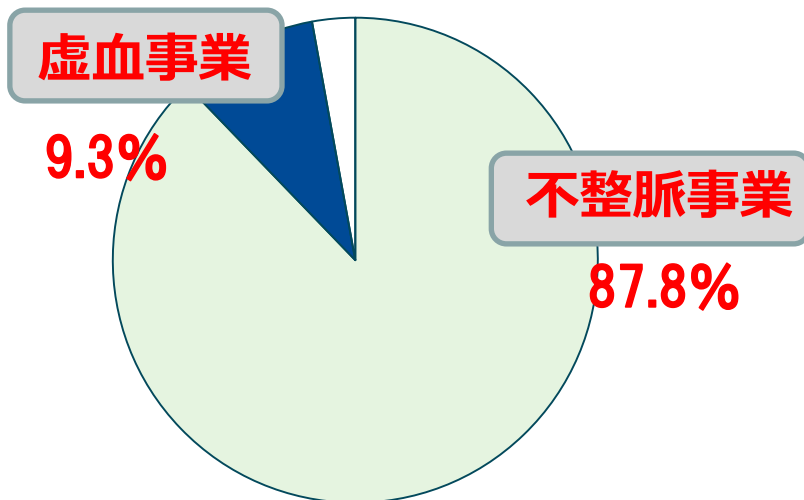
冠動脈形成（保険適用）

末梢血管形成（申請済み）

事業内容④

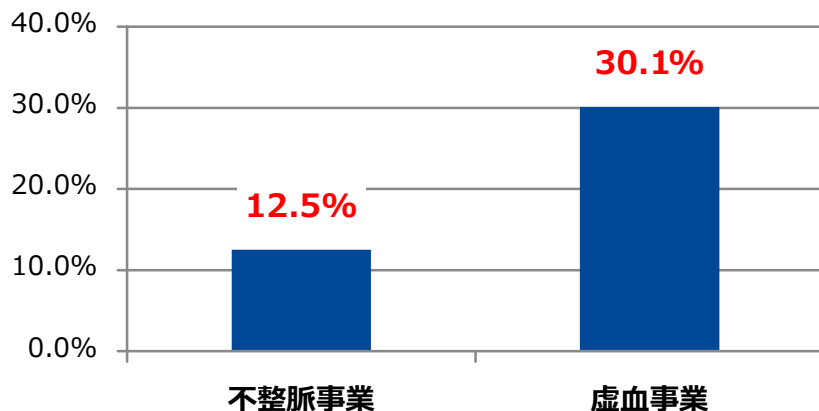
2018年3月期 売上高

Breakdown of sales by segments (Apr, 2017-Mar, 2018)



2018年3月期 事業別粗利益率

Segment-profit margin (Apr, 2017-Mar, 2018)



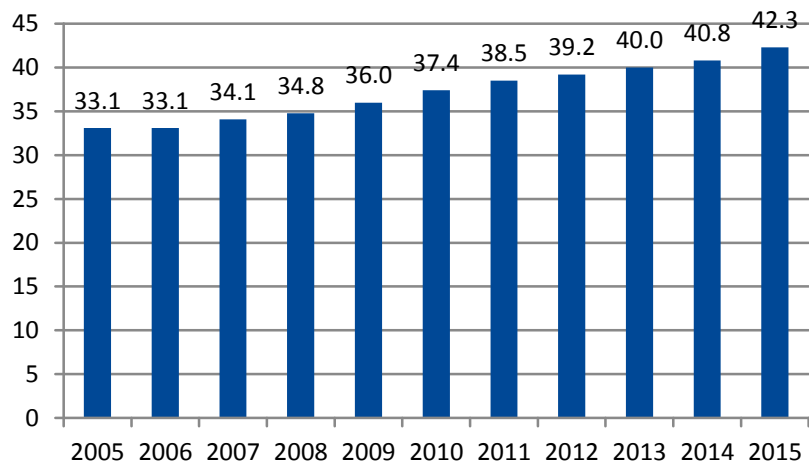
(特徴)

- ◎ 不整脈事業の売上高が多く約88%、虚血事業の売上高は約10%にとどまりますが、ビジネスモデルの違いから粗利益率は虚血事業が不整脈事業より高くなります。
- ◎ 虚血事業は独自にマーケティング、薬事承認を行うコストが発生することになります。
- ◎ 不整脈事業は、2年毎の償還価格改定が大きく影響します。
- ◎ 虚血事業では輸入事業をおこなっております。

国民医療費

● 国民医療費の推移（表1）

（兆円）



資料：厚生労働省ホームページ

「平成27年度 国民医療費の概況」より抜粋

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/15/index.html>

● 国民給付費の将来見通し（表3）

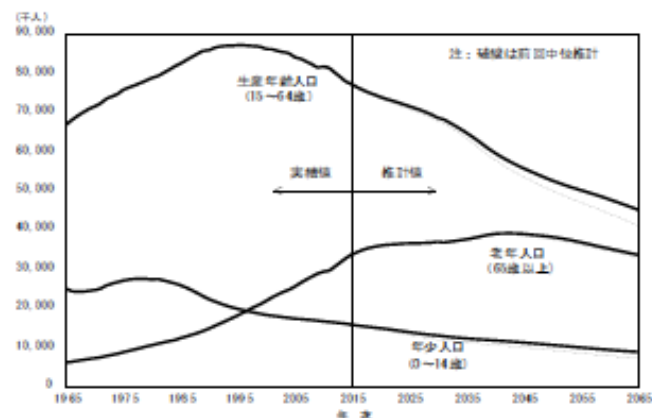
	2006年度 (平成18) 予算ベース	2010年度 (平成22)	2015年度 (平成27)	2025年度 (平成37)
改革後	27.5 兆円	31.2 兆円	37 兆円	48 兆円
国民所得比	7.3%	7.4% ~ 7.7%	8.0% ~ 8.5%	8.8% ~ 9.7%
GDP比	5.4%	5.4% ~ 5.6%	5.8% ~ 6.1%	6.4% ~ 7.0%
改革実施前	28.5 兆円	33.2 兆円	40 兆円	56 兆円
国民所得比	7.6%	7.9% ~ 8.2%	8.7% ~ 9.2%	10.3% ~ 11.4%
GDP比	5.5%	5.8% ~ 5.9%	6.3% ~ 6.6%	7.5% ~ 8.2%
国民所得	375.6 兆円	403 ~ 420 兆円	432 ~ 461 兆円	492 ~ 540 兆円
GDP	513.9 兆円	558 ~ 576 兆円	601 ~ 634 兆円	684 ~ 742 兆円

資料：厚生労働省ホームページ

「医療費の将来見通しに関する検討会」資料より抜粋

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/07/s0701-2.html>

● 日本の将来推計人口（表2）



資料：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ

「日本の将来推計人口（平成29年推計）」より抜粋

http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp

国民医療費

わが国の国民医療費は年々増加し、2013年度（平成25年度）には約40兆円に達しており（表1）、今後20年間は高齢化のさらなる進展と人口減少という大きな人口構造の変化（表2）や技術革新等により引き続き医療費が伸びると言われています。加えて、今後、所得に対する負担率の増加が見込まれており（表3）、これにより診療報酬体系の見直しや保険償還価格の引き下げなど、政府の医療費抑制政策は一層加速するものと考えられています。

医療機器・用品市場

●医療機器・用品の末端マーケットサイズの推移（表4）

単位：億円、% （ ）内は伸び率

	*平成 21 年度	平成22 年度	*平成 23 年度	平成24 年度	*平成 25 年度	平成26 年度	*平成27 年度	*平成28 年度 (推測)	平成29 年度 (推測)
末端マーケットサイズ	26,800 (2.1)	27,240 (1.6)	27,510 (1.0)	28,060 (2.0)	29,400 (4.8)	29,860 (1.6)	30,290 (1.4)	30,630 (1.1)	31,050 (1.4)
①卸・小売業者直販分	23,340 (3.5)	23,890 (2.4)	24,270 (1.6)	24,740 (1.9)	25,940 (4.9)	26,380 (1.7)	26,830 (1.7)	27,180 (1.3)	27,600 (1.5)
うち31,32業種の 直販分	19,890 (3.9)	20,540 (3.3)	21,030 (2.4)	21,400 (1.8)	22,500 (5.1)	22,850 (1.6)	23,350 (2.2)	23,680 (1.4)	24,100 (1.8)
②メーカー・輸入商社直 販分	3,460 (-6.5)	3,350 (-3.2)	3,240 (-3.3)	3,320 (2.5)	3,460 (4.2)	3,480 (0.6)	3,460 (-0.6)	3,450 (-0.3)	3,450 (0.0)

*は診療報酬・薬価改定年

資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2017年版 NO.1」

※31業種：医療機器卸・小売

32業種：医療用品卸小売

●疾病別医科診療医療費（表5）

傷病分類 ¹⁾	平成27年度			平成26年度			対前年度	
	順位 位	医科診療 医療費 (億円)	構成割合 (%)	順位 位	医科診療 医療費 (億円)	構成割合 (%)	増減額 (億円)	増減率 (%)
総数		300 461	100.0		292 506	100.0	7 955	2.7
循環器系の疾患	1	59 818	19.9	1	58 892	20.1	926	1.6
新生物	2	41 257	13.7	2	39 637	13.6	1 620	4.1
筋骨格系及び結合組織の疾患	3	23 261	7.7	3	22 847	7.8	414	1.8
呼吸器系の疾患	4	22 230	7.4	4	21 772	7.4	458	2.1
損傷、中毒及びその他の外因の影響 その他 ²⁾	5	22 212	7.4	5	21 667	7.4	545	2.5
		131 684	43.8		127 690	43.7	3 994	3.1
65歳未満								
総数		116 644	100.0		115 709	100.0	935	0.8
新生物	1	15 212	13.0	1	14 992	13.0	220	1.5
循環器系の疾患	2	12 949	11.1	2	13 063	11.3	△ 114	△ 0.9
呼吸器系の疾患	3	12 013	10.3	3	11 819	10.2	194	1.6
精神及び行動の障害	4	10 727	9.2	4	10 696	9.2	31	0.3
腎尿路生殖系系の疾患 その他 ²⁾	5	8 349	7.2	5	8 378	7.2	△ 29	△ 0.3
		57 395	49.2		56 760	49.1	635	1.1
65歳以上								
総数		183 818	100.0		176 797	100.0	7 021	4.0
循環器系の疾患	1	46 869	25.5	1	45 829	25.9	1 040	2.3
新生物	2	26 045	14.2	2	24 645	13.9	1 400	5.7
筋骨格系及び結合組織の疾患	3	15 764	8.6	3	15 253	8.6	511	3.4
損傷、中毒及びその他の外因の影響	4	14 125	7.7	4	13 490	7.6	635	4.7
腎尿路生殖系系の疾患 その他 ²⁾	5	13 243	7.2	5	12 707	7.2	536	4.2
		67 770	36.9		64 872	36.7	2 898	4.5

資料：厚生労働省ホームページ「平成27年度 国民医療費の概況」より抜粋
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/15/index.html

医療機器・用品市場

国民医療費のなかで医療機器・用品（医療機関、大学・研究所向け）の占める割合を見ると、末端マーケットサイズで1993年度に初めて2兆円を突破しましたが、その後、政府の医療費抑制策を受け保険償還価格の大幅な見直しが行われており、末端マーケットの伸びは低くなっています。

こうした中で、当社がメインターゲットとしている循環器系疾患は、当面人口増加が予想される65歳以上の高齢者において増加する疾病であり、高齢化社会の到来により患者数は大きく増大していくものと予想されます。

さらに、ライフスタイルの変化が患者数増加に拍車をかけており、価格面では他の医療機器・用品と同様に医療費抑制策の影響を受けて下落傾向にあるものの、市場そのものは大きく拡大していくものと予想されております（表4、表5）。

不整脈事業（販売代理店業）の市場

不整脈とは、心臓を動かす刺激の発生または刺激が伝わる伝導路の異常によって心臓のリズムが乱れる疾病のことで、脈が遅くなる「徐脈」、速くなる「頻脈」、リズムが不規則になって脈が飛ぶ「期外性収縮」の3つに大別されます。原因は、先天的なもの以外に高齢化や喫煙、ストレスなどといわれています。不整脈事業の市場は、高齢化や生活スタイルの変化に伴う患者数の増大、新商品開発による適応患者の増加により安定した拡大を続けております。

商品別では、心臓ペースメーカ市場が伸び悩む半面、ICD（植込み型除細動器）やCRT-D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）といったハイパワーデバイスと呼ばれる商品や、アブレーションカテーテル（心筋焼灼術用カテーテル）の市場規模が大きく伸びており、横ばい状況が続いている医療機器・用品市場全体の中であって、不整脈事業の市場は堅調に増加しております。今後も保険償還価格の下落は避けられないものの、市場そのものが拡大基調にあるため、このマイナス分を十分に補うことができると見られております（表6）。

●疾病別医科診療医療費（表6）

（単位：百万円）

製品	2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年 （予測）	
	※	伸び率		伸び率	※	伸び率		伸び率		伸び率		伸び率
心臓ペースメーカ	37,080	-9.3%	37,951	2.3%	38,128	0.5%	38,485	0.9%	38,298	-0.5%	38,885	1.5%
ICD/CRT-D	28,825	9.4%	30,079	4.4%	28,563	-5.0%	28,116	-1.6%	30,933	10.0%	32,298	4.4%
アブレーションカテーテル	11,267	16.7%	12,455	10.5%	13,190	5.9%	17,330	31.4%	22,870	32.0%	27,500	20.2%
電極カテーテル（検査用）	15,085	-0.3%	17,792	17.9%	18,028	1.3%	21,640	20.0%	22,935	6.0%	24,985	8.9%
リード類	13,190	-5.2%	13,644	3.4%	12,201	-10.6%	11,472	-6.0%	11,979	4.4%	12,383	3.4%
合計	105,447	-0.5%	111,921	6.1%	110,110	-1.6%	117,043	6.3%	127,015	8.5%	136,051	7.1%

（参考）当社売上高（実績）

全社	22,872	11.6%	26,420	15.5%	28,647	8.4%	31,372	9.5%	35,266	12.4%	38,275	8.8%
内不整脈事業	18,830	13.6%	21,607	14.7%	23,268	7.7%	25,667	10.3%	29,542	15.1%	33,603	12.8%
市場占有率	17.9%		19.3%		21.1%		21.9%		23.3%		24.7%	

虚血事業（国内総代理店業）の市場

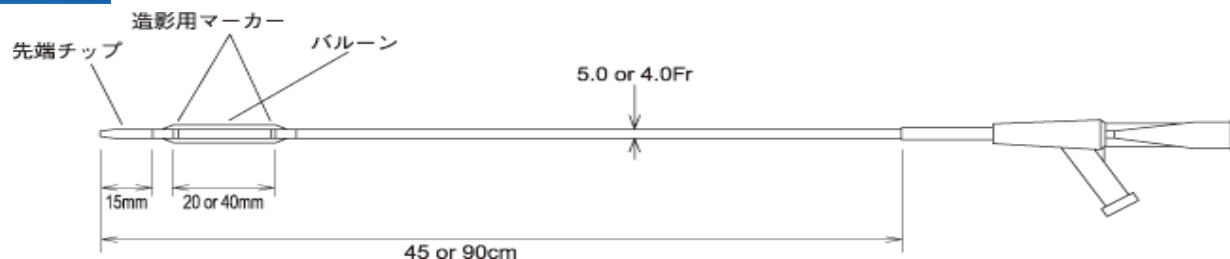
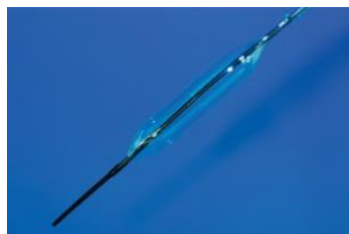
虚血性疾患は、血管が詰まったり細くなったりして起こる疾病で、心臓の冠動脈が原因で起こる心筋梗塞や狭心症、脳の血管が原因で起こる脳梗塞等がその代表的なものです。

原因となる動脈硬化は、糖尿病や高血圧、高脂血症等によって進行し、肥満や喫煙、運動不足、ストレスの多い生活も動脈硬化を促進させるといわれております。

当社は、輸入総代理店として医療機器を販売しておりますが、医療機器として国内流通させるためには医薬品医療機器等法に基づき厚生労働省の承認が必要になります。

Resolution / Resolution SD

Long Tapered PTA Balloon Catheter

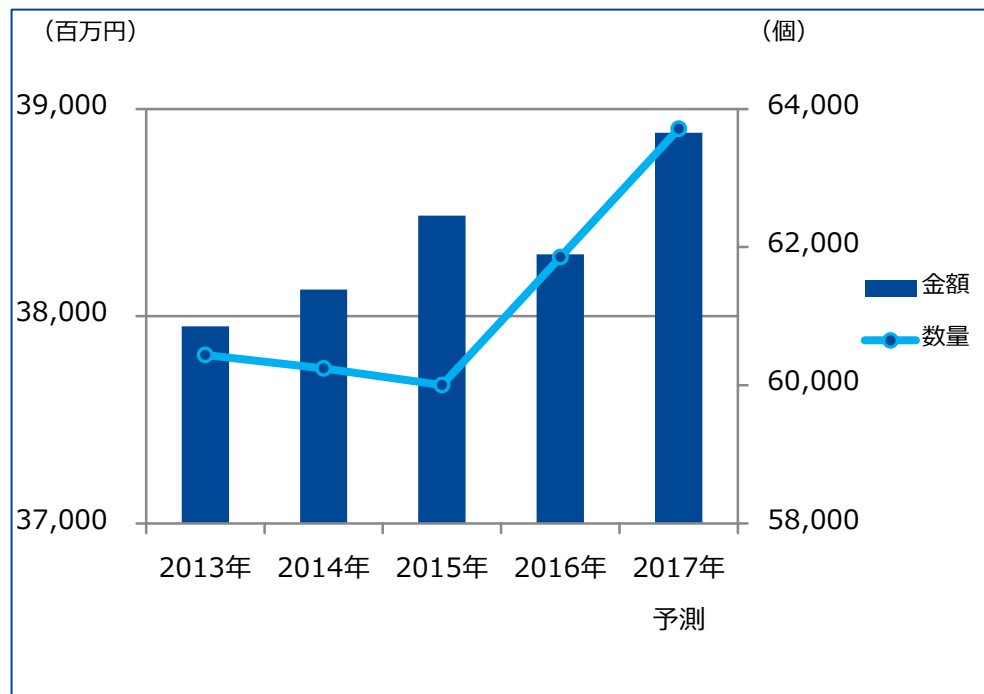


不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場



© Medtronic, Inc. 2009. All Rights Reserved.

●心臓ペースメーカーの市場規模（表7）



資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2017年版 No. 1」を基に当社作成

心臓ペースメーカー

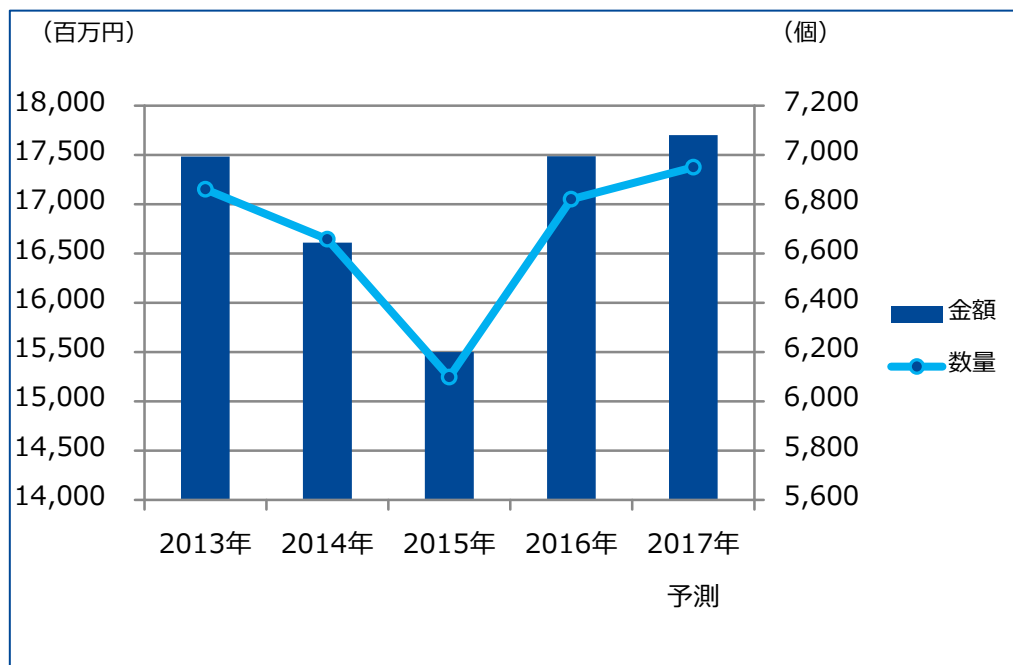
心臓ペースメーカーは、不整脈のうちでも、主に徐脈の治療に使用されますが、同市場は、数量ベースでは増加基調が続いているものの、償還価格の引き下げによる影響を受けており、直近の市場規模は400億円前後で推移しております。2012年4月に行われた償還価格の改定においても引き下げが行われたため、市場規模が縮小したものの、新しい機能が付加されたタイプの商品（**M R I 対応型**：これまで原則禁忌とされていたペースメーカー植込み患者への**M R I**検査が一定の条件をクリアした場合に可能となる製品）が2012年10月に発売されたことから2013年以降、市場規模は拡大傾向にあります（表7）。

今後の見通しとしては、償還価格の低下傾向は続くと思われるものの、引き続き高齢化等による患者数の増加により数量の伸びが予想されるとともに、新しい機能が付加された商品の投入により金額ベースでも伸長することが見込まれています。

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場



● ICDの市場規模（表8）



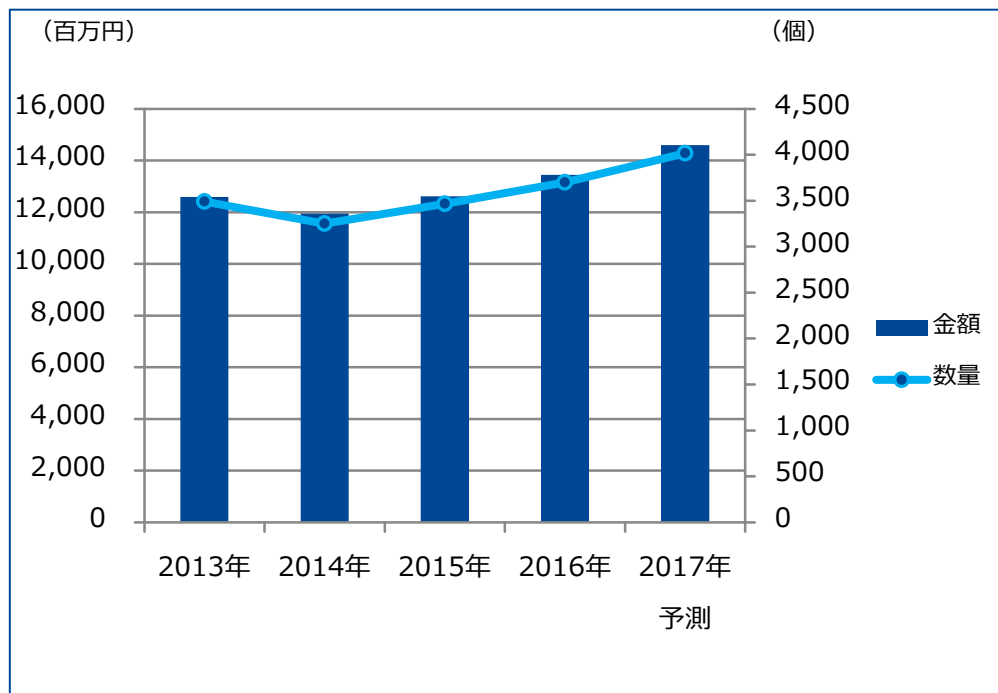
ICD（植込み型除細動器）

心臓ペースメーカーが徐脈の治療に使用されるのに対してICD（植込み型除細動器）は頻脈の治療に用いられております。同商品は、1996年4月の診療報酬改定で保険適用となっており、心臓ペースメーカーと比較すると新しい商品ですが、**適応患者の増加や新商品の登場とともに市場規模が拡大しております**。2014年にはMRI対応型のICDが発売されたことから新規植込みの多くがMRI対応機種に流れているとみられています。（表8）。

資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2017年版 No. 1」を基に当社作成

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場

● CRT-Dの市場規模（表9）



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2017年版 No. 1」を基に当社作成



CRT-D

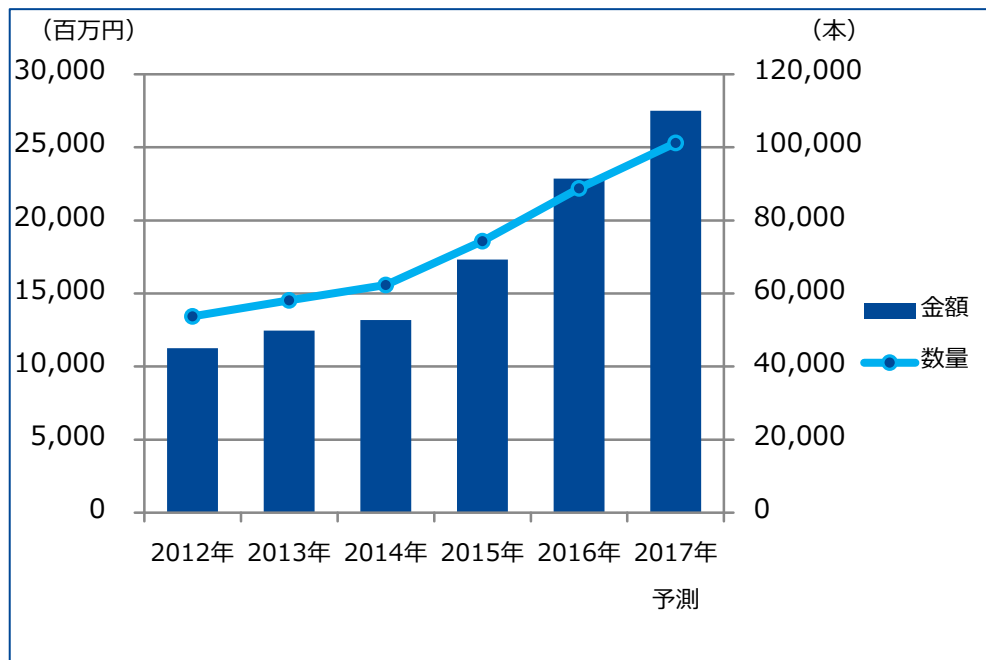
（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）

CRT-D（両室ペーシング機能付き植込み型除細動器）は、ICDの機能と心不全の治療の一種である心臓再同期療法の機能を併せ持つ商品であり、2006年8月に保険適用を受けたものです。それ以降、ICDに比べると適応範囲が広いこともあり、市場規模はICD以上の伸びを示した後、横ばいに推移していましたが、高機能新製品及びMRI対応型のCRT-Dの発売等により2014年以降は増加し続けています（表9）。

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場



● アブレーションカテーテルの市場規模（表10）



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2017年版 No. 1」を基に当社作成

アブレーションカテーテル (心筋焼灼術用カテーテル)

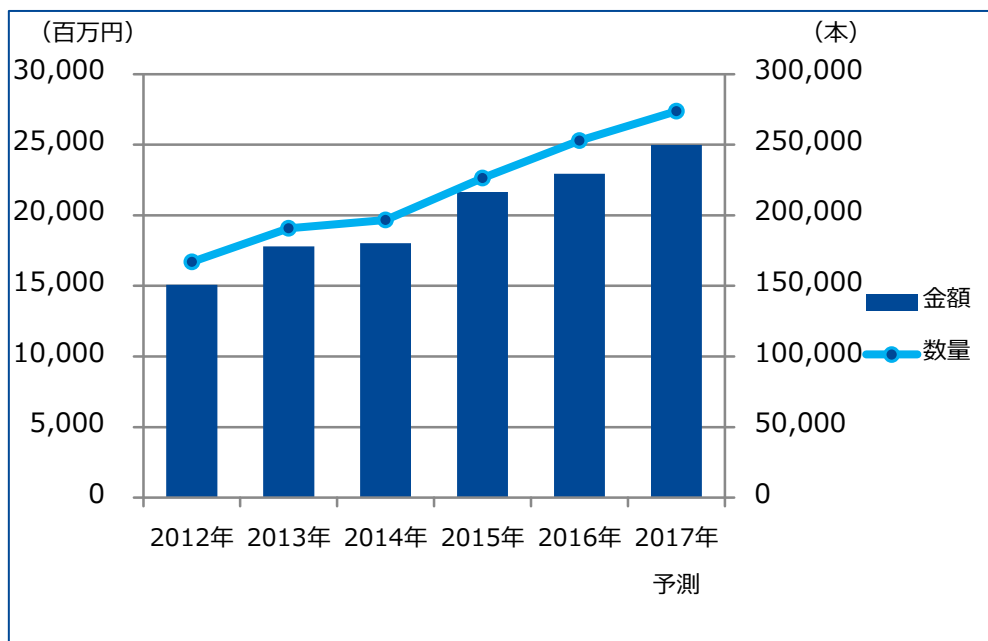
アブレーションカテーテル（心筋焼灼術用カテーテル）は、頻脈の原因となる心筋組織を焼灼することで治療する商品であります。WPW症候群と呼ばれる症状の他、房室結節リエントリ性頻拍、心房粗動、心室頻拍に加え、心房細動の治療にも用いられるようになる等、対象となる症例の幅が広がってきたことから市場規模は年々増加しており、今後もその傾向が続くものと考えられます（表10）。

なお、冷凍アブレーションカテーテルは、カテーテル心筋冷凍焼灼術に使用する商品で、カテーテル心筋冷凍焼灼術は、より短時間で確実な心房細動治療を可能とします。

不整脈事業（販売代理店業）の主要製品市場



●電極カテーテルの市場規模（表11）



電極カテーテル（検査用）

電極カテーテルは、不整脈の診断、重症度評価、抗不整脈薬の薬効評価の他に、心臓ペースメーカーやICDの適応決定等、重要な役割を持った商品であります。不整脈の症例数増加に伴って継続的に数量が増加しており、今後もこの傾向は続くものと考えられます（表11）。

資料：㈱アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2017年版 No. 1」を基に当社作成

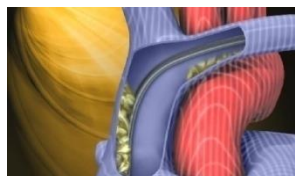


エキシマレーザ血管形成システム

当社が日本国内で独占販売しているエキシマレーザ血管形成システムには、現在日本国内において以下の2つの治療に適用が認められています。

① エキシマレーザによる心内リード抜去術

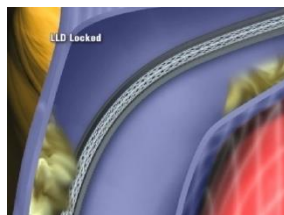
ペースメーカやICD等のデバイスが菌に感染すると、デバイスと心臓をつなぐリード線を通じて全身に菌の感染が広がります。感染を完全に治療するには、感染源であるデバイスやリード線を抜去する必要があります。しかし、リード線は血管内や心臓内に長期間留置されることで、血管や心臓の組織と癒着しており、抜去することが困難になります。レーザシースカテーテルの先端から照射するエキシマレーザにより、リード線に癒着した血管や心臓の組織を蒸散して剥離することで、リード線の抜去を可能にします。



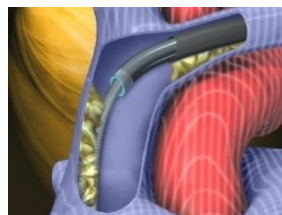
① ペースメーカ、ICD
リード線が癒着



② リードロッキングデ
バイスをペースメーカ等の
リード線中空に挿入



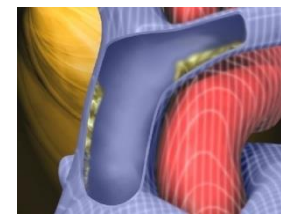
③ リードロッキングデ
バイスを広げペースメー
カ等リード線に固定



④ リードロッキングデ
バイスを牽引しながら
ペースメーカ等リード
線にレーザシースを
かぶせる



⑤ 癒着部分を蒸散し
リード線を血管壁から
剥離



⑥ ペースメーカ等リード
線を抜去終了

虚血事業（輸入代理店業）の製品紹介

②エキシマレーザによる冠動脈形成術

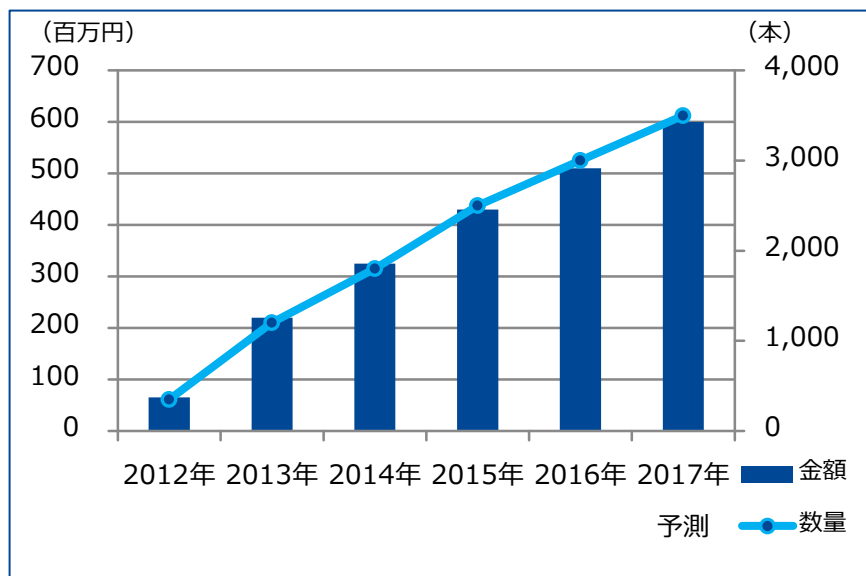
心臓に血液を運ぶ冠動脈が動脈硬化や血栓によって狭窄または塞栓すると、狭心症や心筋梗塞の原因になります。血管内に挿入したエキシマレーザ専用カテーテルの先端から狭窄や塞栓を起こしている部位にエキシマレーザを照射することにより、血栓などを分子レベルで分解し**冠動脈の血流を改善**します。

2012年4月にエキシマレーザ心内リード抜去術の手技（治療行為）が正式に保険収載され、エキシマレーザによる冠動脈形成術も、2012年4月に手技が保険適用となったのに続き、7月には専用のカテーテルの償還価格が認められたことで、一般の保険診療として治療に用いることが認められました。当社が販売するエキシマレーザ血管形成システムは、この心内リード抜去術や冠動脈形成術に使えるレーザ装置として**日本国内で唯一承認された商品**です。

年間43,000人以上が死亡する急性心筋梗塞やステント治療後の狭窄や塞栓の再発の治療において、エキシマレーザが持つ大きなメリットに対する医師の関心が高まっており、冠動脈形成術の本格的な普及を予想しております。



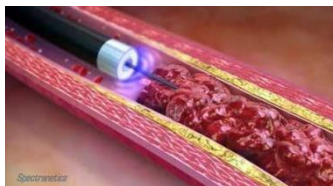
●レーザカテーテルの販売実績の推移（表13）



資料：(株)アールアンドディ「医療機器・用品年鑑 2017年版 No. 1」を基に当社作成



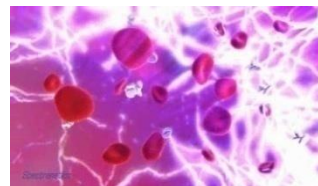
①病変部へガイドワイヤーを通します



②レーザカテーテルを入れます



③病変部へレーザを照射します



④病変部が蒸散

映像関連製品の紹介

映像マネジメントシステム



多数のモダリティー映像を大型モニターで一括コントロールするシステムです。

見やすく使いやすいインターフェイスデザインで、術中のレイアウト変更・サイズ調整、ユーザーによる機器の追加接続が自由自在です。

遠隔映像配信システム



さまざまな医療現場にて治療中に必要な各モダリティーの映像情報データを、院内LANまたは院外VPN回線を利用し、カンファレンスルームや講堂、遠隔ライブ拠点等への配信が可能です。

複数の映像データによる情報共有により、治療中の状況をリアルタイムに確認することを実現し、ライブや臨床研究、リスク管理等に貢献します。



■ I R についてのお問い合わせ先 経営管理課



TEL : 03-5985-6827 FAX : 03-5985-6106 U R L <http://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。